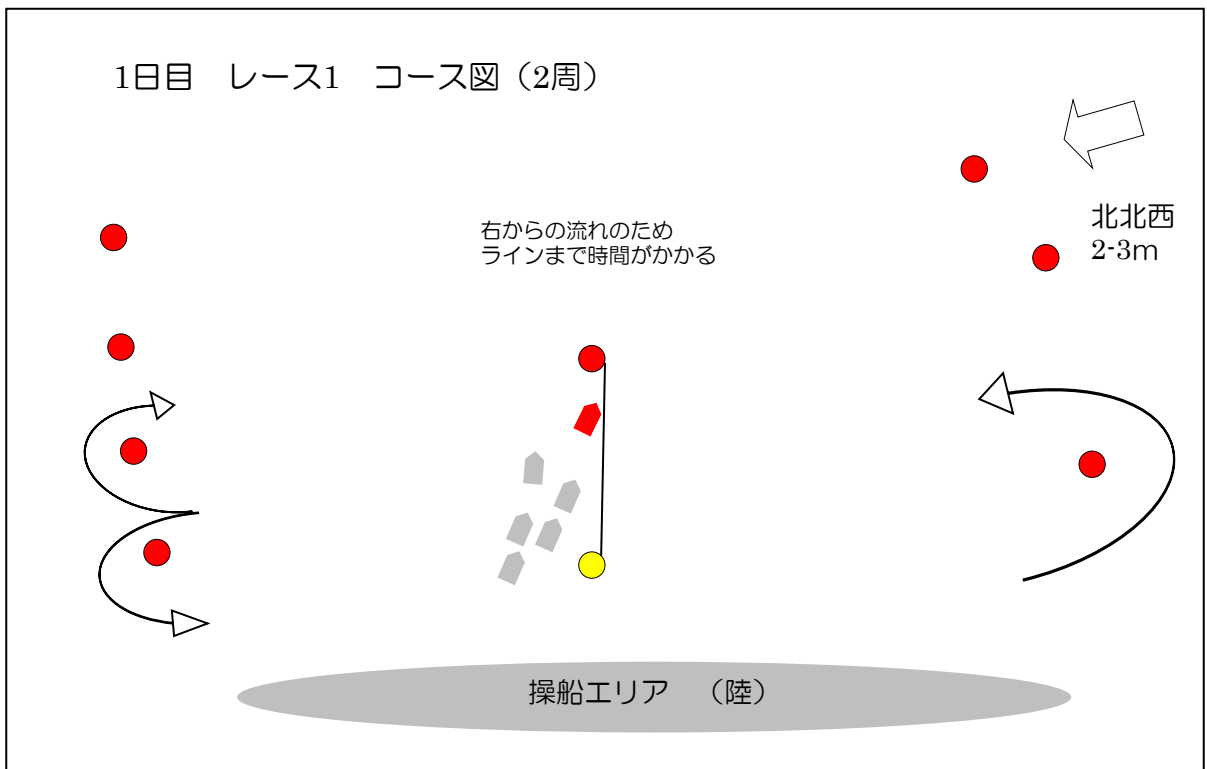


DFクラスについては、95に65を加えて2つの選手権を開催（第1回は同時開催）するようになってから今年で4年目となり、その間延べ151名のセーラーが大会に参加しています。選手権を目標にJMAYAに入会された会員も多く、DFクラスがここ数年のJMAYAをけん引してくれました。

「DF65クラスは、IOMやマーブルヘッド、36/600のような開発クラスの艇ではなく、艇の性能差がない実力主義のクラスなので、ワンデザインでの優勝はトップセーラーを意味する。私としては、このワンデザインクラスでのタイトルがとても欲しかった。」というのは、前大会優勝山脇氏の参戦記からの引用ですが、私も同じ心境でレースに臨みました。（山脇氏はこの後IOM、DF95と3選手権を連覇した後他界されました）

さて、山脇氏の参戦記からのさらなる引用です。「彩湖独特の・・・北西風の場合はポートの時はキールが川の流れと平行になり艇速は上がり角度も維持できるが、スタボーの場合はキールが垂直となりモロに流れの影響を受ける。・・・勝負するならポートロングでのコース選択となる」。成程、彩湖をホームポンドとする私にとっては理解いることですが、今一度天からの声として心に停めておきました。

レース初日の予報は午前/北風2～3m、午後/南風3～4m。大事なシーディングレースのR1開始間際、ざわついた雰囲気の中、私は右（北）からの流れを確かに感じていました。風向はやや西向きでアウター有利と判断し、入水後いち早く自艇を流れに逆らいながらライン下サイドに向けました。ようやく到達した瞬間スタートの号砲。スタートラインに到達していない艇もある中で、トップスタートし、以後抜かれることなくフィニッシュ、まさに山脇氏の「アドバイス」のおかげで幸先の良いスタートを切ることができました。（下記図参考）



その後、北風がやみ14:00から南風が安定して吹き始め、合計3と1/2レースを消化して16:00に1日目終了。自身は第3レースが10着（10ポイント）と取りこぼし、翌日はBヒートからの始まりとなり、意気消沈する展開となりました。夜は恒例の有志による中華円卓を囲んだ親睦会に11名が集まり、翌日への英気を養いました。

2日目は9時から待機するも風がなく2時間の風待ち後11時よりレーススタート。徐々に南風が2→5mと強まりそれにつれて使用するリグもA+からA、Bと交換する選手が増えていきました。

私はR4はBヒートからの開始でしたが、何とかAヒートに上がり2位でフィニッシュ。その後は何と一度もBヒートに落ちることなく、1位、4位、2位、1位、1位と上位にてフィニッシュすることができ、結果優勝することができました。勝因は、1日目は山脇さんの「アドバイス」、2日目は以下の3つを注意した点だと思えます。

### ①「Aリグ」のチューニング

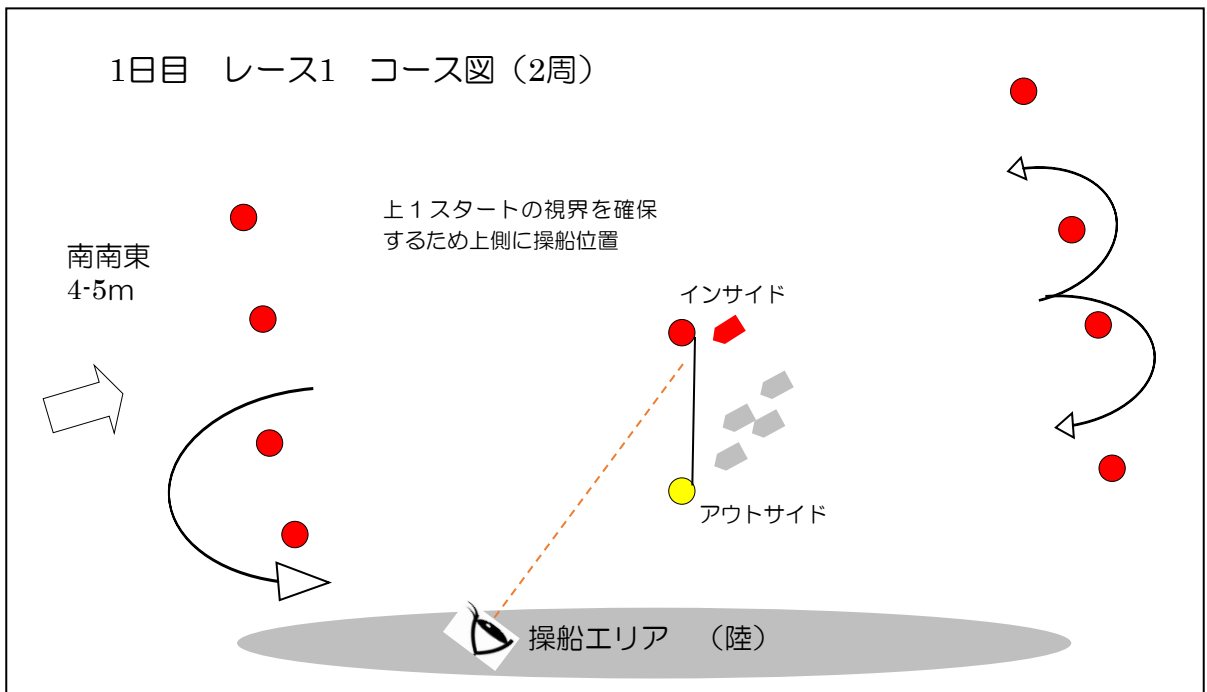
DF65はもともとRG65クラスとして開発され、後になってA+リグ（マストヘッドリグ）が追加されてワンデザインクラスとして発展し現在に至ります。したがって、「Aリグ」の風域が狭く、使用する場合（4~5m）は通常オーバーパワーとなり、過剰なウェザーヘルムが発生しない様にメインのリーチを十分開ける（60~70mm）ことが肝要です。

### ②タッキングの失敗防止

DF65は小さく軽いので、風が上がってきて波が出てくるとタッキングで失敗し、シバーしながら止まりやすくなる。そのため、タッキングの際には、低速、上り角度、ラダー打角（43~45度）、波の有無を十分考慮し、迷わず一気に舵を切ることが大事。

### ③スタート時の操船位置

タッキングが難しい状況では、スタート位置は下（アウトサイド）の方が角度が良くても、上（インサイド）有利のスタートになる場合が多い。その場合、スタート時の視界を確保するため思い切って上側に操船位置をとるとよい。（下図参考）



さて、本大会については選手としても参加した東日本支部の望月さんが素敵な動画を作成してくれています。どうぞご視聴下さい。↓

<https://www.youtube.com/watch?v=Vkxo6kakAQ4&list=PLSaRd6gzhSP9pLu27hP4s8ra8srsqbCW&index=2>

最後になりましたが、西日本支部の池田さん、東日本支部の梅林さんと木村さん、ボランティアの筒井さんと永山さん、遠路、関西・中部からお越しいただいた選手の皆さん、心より御礼申し上げます。



第4回 DF65選手権 天気：晴れ 風：0-5m] 2025.9.28

クラス class															
DF65		Cut	2	DNF他	RC										
Rank	選手名 skipper	セ-ルNo	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	STotal	Cut	Total	
1	池松 Y. Ikematsu	64	1	4	10	2	1	4	2	1	1	26	14	12	
2	永井 S. Nagai	50	1	2	5	3	2	8	3	4	3	31	13	18	
3	高橋 Y. Takahasi	96	4	8	2	8	6	2	4	3	6	43	16	27	
4	橋本 N. Hashimoto	80	6	3	7	1	7	5	8	7	4	48	15	33	
5	筒井 Y. Tsutsui	221	8	9	4	6	5	1	5	8	5	51	17	34	
6	望月 K. Mochizuki	34	6	7	6	7	4	6	1	9	17	63	26	37	
7	八木 T. Yagi	39	2	13	8	4	9	10	17	2	2	67	30	37	
8	岩永 N. Iwanaga	92	3	5	9	11	3	7	11	5	10	64	22	42	
9	伊藤 T. Ito	139	3	1	12	5	10	17	7	10	11	76	29	47	
10	宮谷 N. Miyatani	54	4	11	14	13	8	3	10	18	8	89	32	57	
11	吉朝 H. Yoshiasa	66	7	20	1	9	11	9	18	13	14	102	38	64	
12	佐々木 Y. Sasakki	81	2	10	3	10	16	15	14	13	12	95	31	64	
13	深江 Y. Fukae	37	8	16	17	16	12	14	6	6	9	104	33	71	
14	東 T. Azuma	45	5	14	16	13	13	13	19	17	7	117	36	81	
15	西川 T. Nishikawa	33	7	6	11	18	18	16	16	11	15	118	36	82	
16	岩田 Y. Iwata	65	5	17	15	15	14	11	12	14	19	122	36	86	
17	平尾 M. Hirao	59	10	15	13	14	15	20	9	15	13	124	35	89	
18	堀江 T. Horie	29	9	20	19	19	17	12	13	19	16	144	39	105	
19	大川 N. Ookawa	91	9	13	18	17	19	18	15	16	18	143	37	106	